

「普通に…」と拘るメガネを外すお手伝いできれば…

花の写真を厚かましく添付送信した障害のあるお子さんのお母さんから、素敵なメールをいただきましたので、紹介します。

【 お花の写真ありがとうございます（^-^） 本当にきれいですね。
きれいなものを綺麗と感じられることは素晴らしいですよ。

実は最近、感じられるようになったのです。自然の移ろいを綺麗だな～と感じるのです。山の色がゆっくりと変わっていくのです。

これだけ自然に囲まれているのに、今まではあまり感じませんでしたね。

実は、子どもの先生が絵を積極的に教えてくれたお陰で、「山の色は何色？」と聞くと、「白にちょっと黄色と緑を混ぜた感じ？」（春先の時）。「空の色は？」と聞くと、「今日は白にちょっと黒が混じった感じ？」。「田んぼは？」と聞くと、「茶色にちっちゃく緑の点々」とか言うんですね。

この会話が楽しくて、楽しくて、そうすると私が山の色を気をつけて見るようになって、少しずつ変わっていく色の変化をすごいな～生きているな～と感じるのです。不思議ですね。子どもに教えようとして、自分が教えられました。

前は子どもを普通に近づけよう、普通になるようにと思ったものです。子どもが普通だったら、自然の色の会話なんてしなかったかも。普通の子に近づけようというこだわりを捨てたら、別のものが見えてきました。

私の器の中のゴミがだいぶ捨てられたからこそ、余裕が出来たのかな。余裕がないと自分だけで精一杯ですよ。自然の美しさや朝の小鳥の声なんか耳にはいませんよね。

阿部さんの写真は、花の妖精が遊び飛んでいるようにふわ～っとしていました。】

「普通に…」というのは、「普通」というものしか見えないメガネをかけて見ているようなものかも…。

ですから、「普通に…」という拘りのメガネを外せば、その人なりの感性で色んなものが見えてくるのは、至極当然なことのように思える。

色んなものが見えてくるということは、新たなことを知ることでもあり、「知ることは、自分が変わる事」でもありますものね。

寄り添い続ける中で、「普通に…」という拘りのメガネを親御さん自身が外す力を育むことに、少しでもお手伝いできればと思っています。